

# 市民まちづくり塾の活動について

木更津ロータリークラブ 講演資料  
2018.03.29 東京ベイプラザホテル  
市民まちづくり塾代表 地曳 昭裕

## 1. 市民まちづくり塾誕生の経緯

1999年2月に「かずさ地域をもっと良くするため、行政の機能に頼るばかりではなく市民としての責任を自覚し、市民・企業・行政が一つになって取り組もう」と(社)かずさ青年会議所の呼びかけに賛同した、地域でまちづくり活動を行っている5団体で「“かずさ”まちづくり連絡会議」が発足しました。

その「連絡会議」が主催する住民参加のまちづくり運動として同年3月に市民まちづくり塾がスタートし、当初は多数の参加者により「歴史」「文化」「産業」等の活動が展開されましたが、2002年の四市合併運動に向かう中で「自然」以外の活動は消滅し、残った自然グループが塾の名前を継承する事に成りました。

## 2. 自然グループの取り組み

塾の始まった初年度は地域の自然環境学習を行いました。2001年からはフィールドでの活動を重視し、矢那川上流の休耕田にコスモス畑を造り、2001年から2014年までは矢那川の国道より下流の護岸に彼岸花の球根を移植して来ました。この活動は地元の中学校(第一・第二・太田)へ働きかけ、多くの生徒が参加しました。

また、地元の自然の素晴らしさを多くの市民に知って貰おうと、2002年から2016年まで、北は袖ヶ浦市吉野田の里山から南は鴨川市内浦山県民の森の自然林まで、17回に渡り、多くの場所で自然観察会を展開してきました。



## 3. 太田山との関わり

矢那川で彼岸花活動を行っていたのは市街地に残された自然環境だからであり、同様に市街地に残された里山として太田山は意識していました。その様な中で2010年に塾の活動10周年を迎えるにあたり、記念事業として太田山公園の植生を調査し、翌年2月に市役所の資材支給をいただき、200枚の樹名板を設置しました。

また2012年には木更津ビューホテルから博物館に向かう道の途中の有刺鉄線柵のごく一部を竹柵でカバーするなど、有志で「太田山活性化プロジェクト」という取組も始めました。



## 4. 太田山竹取ものがたりの取り組み

太田山の植生調査を行う中で、孟宗竹の繁茂が酷い状況であると判り、2015年より市民まちづくり塾の活動を太田山に集中させ、木更津市の「まちづくり活動支援事業」にも採用された「太田山竹取ものがたり」を開始し、孟宗竹の駆逐を始めました。当初は楽しく竹を使用して減らすことを考え、竹で御飯を炊き、竹炭を焼き、竹垣や竹灯籠を造ったりしましたが、2018年は伐採に力を入れて活動した結果、展望の無かった安西家や博物館のテラスから風景が見渡せるように成りました。

2018年度以降も引き続き整備を進める予定ですが「まちづくり活動支援事業」の対象期間の3年も終了し、今後は予算の確保とより広いボランティアの協力が必要と考えています。

